

詳細

キノコ菌床栽培における培地添加物の影響

エリンギなどの菌床栽培において、発生量の増大や材料費の低減化を図ることを目的にして、オカラ、大豆皮、綿実殻、消石灰などの材料を培地に添加して栽培試験を行い、培地添加物がキノコ発生量などに与える影響を調査した結果について紹介します。

結果、エリンギおよびブナシメジでは、栄養体がフスマと米ヌカの場合よりも、一部をオカラに置換した場合に発生量が増加しました。

さらに、オカラの置換割合を変えたり、オカラに消石灰や酵素をさらに添加してその効果を確認しています。その効果は培養日数によっても若干異なりますが、発生に適したオカラの置換割合が明らかになるとともに、消石灰や酵素の添加効果も見られました。

廃菌床の再利用がキノコ発生量等に及ぼす影響

ブナシメジ、シイタケの菌床栽培において、材料費の低減を目的に、廃菌床を菌床材料に再利用して栽培試験を行い、キノコ発生量などに及ぼす影響を調査した結果について紹介します。

結果、ブナシメジでは、スギオガ粉だけを基材に使った区よりも、廃菌床を基材に入れた区のキノコ発生量が増加しました。

その理由のひとつとして、再利用した廃菌床中に残っている栄養分が、キノコ発生量に影響した可能性が考えられます。

シイタケでは、廃菌床を再利用した区は、キノコ発生量が減少する傾向がありました。

3種類の廃菌床(栽培方法が異なるもの)を使って数種の試験区を設け、広葉樹(チップ、オガ粉)だけを基材に使った区と比較したところ、キノコ発生量が減少した区が多くありました。一方、キノコ発生量が減少しなかった区もあり、廃菌床の状態によっても左右される可能性が示されました。

今回の報告では、ブナシメジの廃菌床再利用試験で発生した子実体の実物を、併せてご覧いただきます。

この情報交換会は、県内のキノコ栽培関係の方々に広くご案内しております。